

「 05 危険な情報に注意」

1．指導対象

中学1年生～高校3年生

2．指導意図

高度情報通信社会では、社会生活において子供から大人まですべての年齢層の人が何らかの形でインターネットを利用することになる。

目的によってネット利用の形態はさまざまだが、特に、まだ十分な年齢層に達していない社会経験の少ない子供たちはインターネットを介して被害を受けやすい立場にある。

被害の発生メカニズムは、インターネット上で提供される「情報」によって行動を起こし、その結果、被害を受けることになるが、現在、インターネット上に提供されている情報は玉石混交しており、その情報の信憑性を正しく評価し判断することができないため、被害に巻き込まれることになる。これはレベルの差こそあれ、大人にとっても同じことである。

今後、高度情報通信社会がさらに発展することによって、新しい手口による新たな危険が発生し、被害に巻き込まれることも多くなると思われるが、この危険から子供たちを守るための方策として、第一にはインターネットを取り巻く様々な環境に関して、子供たちに正確な判断ができる知識を与えることと、アクセスされた情報に対して、情報を鵜呑みにせず、常に正誤の判断ができる訓練をすることが大切である。また、明確な判断ができない情報には近づかないことも危険回避の重要な方法であることを教える必要がある。

第二に、社会秩序に反するような「危険な情報」の存在を許さず、また、インターネット上から排斥する継続的な社会運動も必要と考えられる。

これらの方策によってある程度の被害を防止することはできると考えられるが、被害を皆無にすることはほとんど不可能に近いことも知っておく必要がある。

したがって、万が一被害に遭った場合の適切な対策も教えておくことが重要である。

この教材は、インターネット上に渦巻くさまざまな「危険な情報」に注意することを喚起するためのひとつの教材事例である。

3．指導目標

インターネット上の情報は玉石混交していることを理解させる。

インターネットの世界は自己責任を求められる世界でもあることを理解させる。

「情報」の善悪に対する正しい判断ができるように訓練を重ねる。

提供されている「情報」を鵜呑みしない習慣を付けさせる。

怪しい情報には近づかない勇気が大切であることを教える。

万一、被害にあった場合の対処方法を指導し、家庭ぐるみで考えてもらう。

「危険な情報」が与える社会悪について考えさせ、正しい社会参画の態度を育成する。

4．授業展開例（高校生：1～2時間程度）

・授業形態

授業を学級単位一斉授業形態で実施する場合、教師用として教材提示用のインターネット・クライアント1台と、プロジェクターを使用する。若しくは生徒側のクライアントに一斉に教材提示ができるネットワーク機能があるとよい。生徒側には生徒1人に1台のインターネット・クライアントを利用するか、数人のグループ単位に1台のクライアントが利用できることが望ましい。

教師はプロジェクターで教材を提示したり、参考となるWEBページを紹介しながら授業を展開する。生徒は教師からの教材提示や質問等に応じたり、関係Webページの利用等を通して学習が展開するが、場合によっては問題に対してディスカッション場面を設定し、共同で問題解決を行う訓練を取り入れることもよい。

授業の最後に自分の考え方や問題点等をノートにまとめさせ、ワークシートに感想等を記述させる。

・学習の流れ（例：高校生）

学習活動	教師の支援
(1) 教師のプレゼンテーションを見る。 また、教師の指示で生徒自身が関連サイトのWeb検索を行う。これによって、現代社会におけるインターネットの重要性について理解させ、ノートにまとめさせる。	準備 ・生徒用クライアントから教室内サーバ（または先生機）若しくは校内サーバに学習モジュールをインストールしておく。 ・関連サイトのリンク集を調べておく。
(2) 学習モジュールを生徒自身でも操作し、「危険な情報」の一例を学習する。 教師が指示した関連サイトを閲覧して、必要なことをノートさせる。	レクチャー ・インターネットの利便性やライフラインとしての役割等についてプレゼンテーションする。 ・インターネットから提供される「情報」には、光の部分だけではなく、影の部分も存在することを実例で説明する。 ・液晶プロジェクターなどを用いて学習モジュールを表示する。 ・「危険な情報」に関連するサイトを紹介して考えさせ、判断力を養う。
(3) 個別あるいはグループで学習モジュールにおける問題点を見だし、意見発表を行う。（ディスカッションを伴う場合もある）	・話し合った内容をワークシートにまとめるよう指示する。 ・被害事例を紹介し、どのような対処方法があるか考えさせる。
(4) 「危険な情報」が個人や社会に与え	・被害事例と対処方法について、グループ

<p>る影響や被害を避ける方法についてクラス全体で考えさせ、意見発表をさせる。</p> <p>(5) 高度情報通信社会にどのような態度で参画するか、ディスカッションをさせる。</p> <p>(6) ワークシートに感想・自分の考え等を記述させる。。</p>	<p>またはクラスでディスカッションさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がまとめを行う。 ・感想、考え方等をワークシートにまとめさせる。 <p>・ワークシートは、掲示板もしくはホームページでクラスあるいは校内に公開できるとよい。さらに授業後追加書き込み等できれば授業の発展性が得られる。また、教師にメールでレポートすることも、後に評価資料として利用できる。</p>
---	---

5. 万が一被害に遭遇した場合の対処方法をまとめ、プリント資料として、家庭に持ち帰り、それを基に家族で話し合い確認してもらおう。

6. 今後、さらに発展する高度情報化社会の中で、自らどのような社会参画があるか、継続的テーマとして考えさせる課題を与える。